

近代文学研究叢書

第四十七卷

昭和53年5月20日 印刷
昭和53年5月31日 発行

[¥ 3 0 0 0]

著者	昭和女子大学近代文学研究室
発行者	東京都世田谷区太子堂一丁目七番地 坂本 由五郎
印刷者	東京都千代田区神田錦町三丁目十四番地 梶原 忠幸
発行所	東京都世田谷区太子堂一丁目七番地 昭和女子大学近代文化研究所 振替口座 東京 四一七〇八六七 電話(422)五一三一 内線二七五

近代文学研究叢書

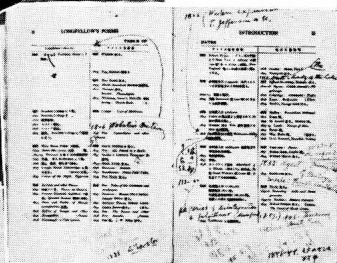
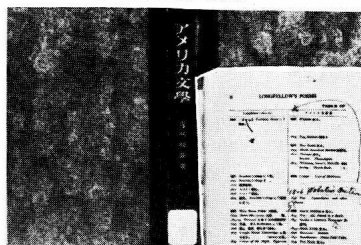
第四十七卷

昭和女子大学

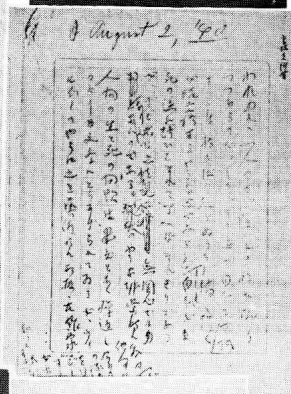
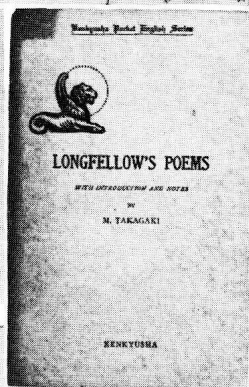
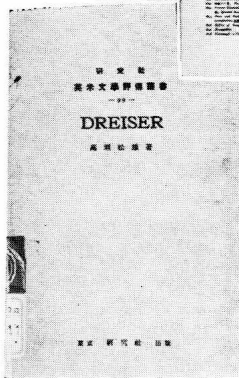
近代文学研究室

高垣松雄 (1)

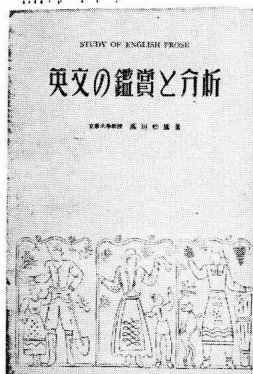
アメリカ文学・昭和2年6月 月刊(昭和女子大学蔵)
LONGFELLOW'S POEMS
昭和6年4月刊表紙と内容
(高垣敏子氏蔵)



肖像

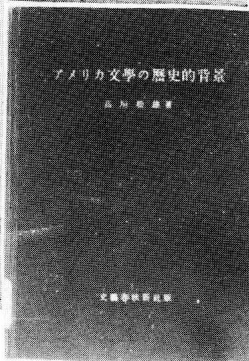


筆跡 (高垣敏子氏蔵)

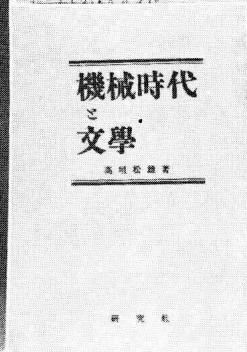


DREISER 昭和8年10月刊
(昭和女子大学蔵)

英文の鑑賞と分析
大正8年12月刊
(高垣敏子氏蔵)



アメリカ文学史の歴史的背景
昭和21年10月刊
(昭和女子大学蔵)



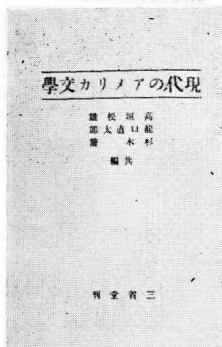
機械時代と文学
昭和5年1月刊
(昭和女子大学蔵)

高 垣 松 雄 (2)

現代のアメリカ文学

昭和16年5月刊

(昭和女子大学蔵)



シカゴにて聞きし女流詩人の講演・英語

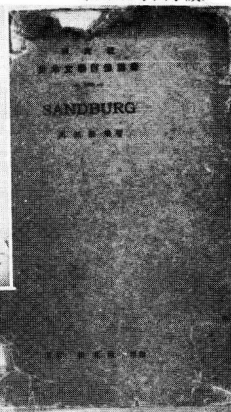
文学・大正10年1月(昭和女子大学蔵)



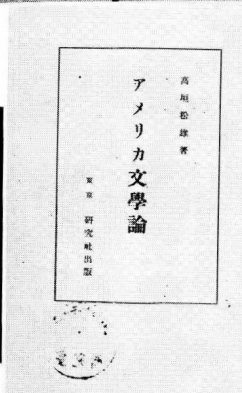
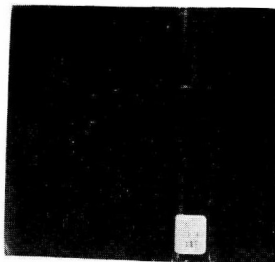
SANDBURG・

昭和14年8月刊

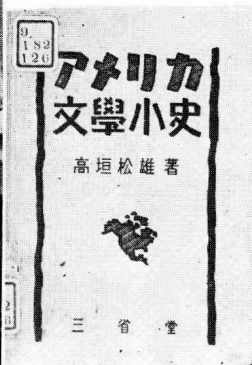
(昭和女子大学蔵)



アメリカ文学論・昭和16年10月刊
(昭和女子大学蔵)



墓(龍門禪寺)



← アメリカ文学小史・昭和16年10月刊
(昭和女子大学蔵)

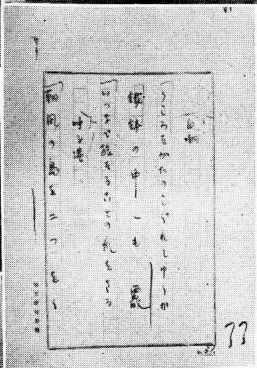
↑
ジェニー・ゲルハート
昭和6年12月刊
(昭和女子大学蔵)

種田山頭火(1)

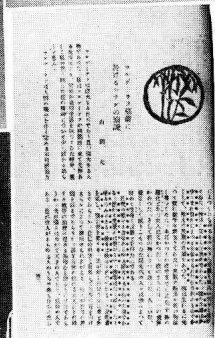
肖像



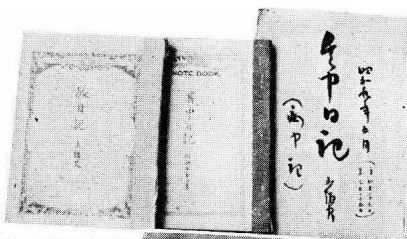
「層雲」投稿自筆原稿



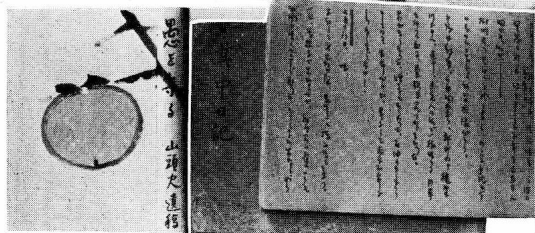
ツルゲ1子フ墓前に於けるルナンの演説
青年・明治44年8月(大山澄太氏蔵)



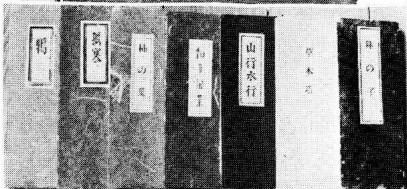
其中日記(自筆ノート)
及び内容の一部
(大山澄太氏蔵)



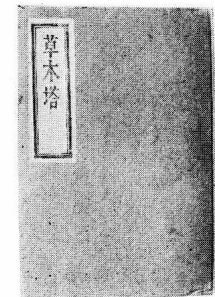
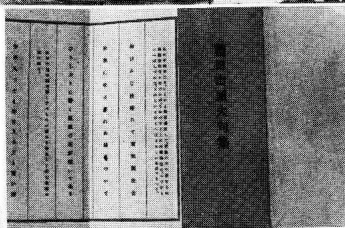
愚を守る・昭和16年8月刊
(大山澄太氏蔵)



第一句集、第七句集
昭和7年7月、15年8
月刊(大山澄太氏蔵)



第一句集「鉢の子」扉
と本文・昭和7年7月
刊(大山澄太氏蔵)



草木塔・昭和15年4月刊
(大山澄太氏蔵)

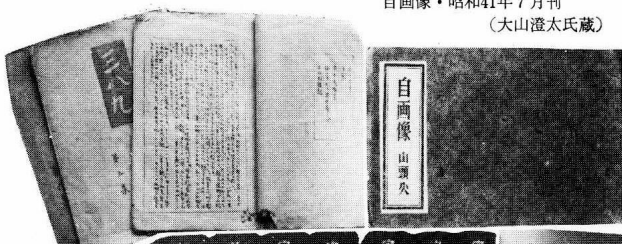


其中日記卷五・昭和39年10月刊
(昭和女子大学蔵)

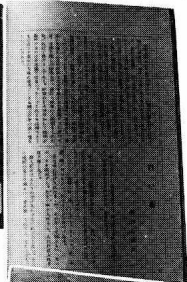
種 田 山 頭 火 (2)

自画像・昭和41年7月刊
(大山澄太氏蔵)

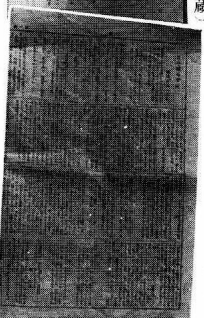
三八九(第四集)第六集
昭和7年12月~8年3月
(大山太澄氏蔵)



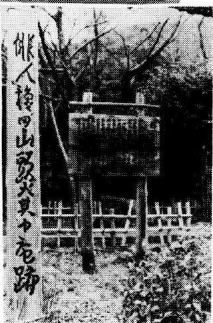
白い花・広島通友・昭和13年11月
(大山澄太氏蔵)



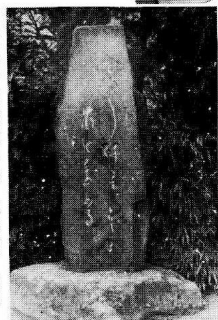
其中庵の手記(種田山頭火遺稿)大井
昭和22年7月(大山澄太氏蔵)



其中庵跡(山口県吉敷郡小郡町)



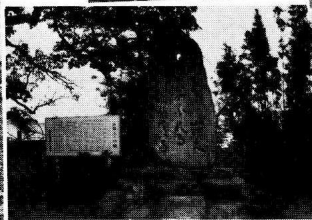
定本山頭火全集(第一巻~第七巻)・昭和
47年4月~48年6月刊(昭和女子大学蔵)
句碑(山口市湯田温泉)
ほろ／＼酔うて木の葉ふる



一草庵句碑(松山市)
春風の鉢の子一つ
(防府市)
雨ふる故里ははだしで
あるく



墓(防府市・報国寺)



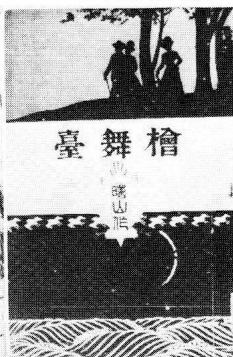
句碑(山口県豊浦町川本朋温泉)
——涌いてあふれる中にねている

前 田 曙 山 (1)

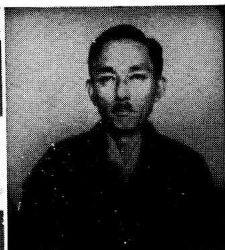
にこり水・明治32年12月刊
(昭和女子大学蔵)



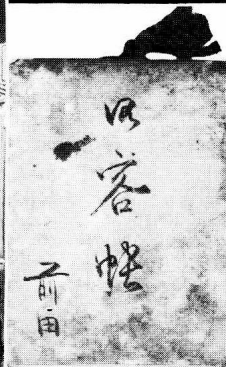
檜舞台・昭和34年5月刊
(昭和女子大学蔵)



肖像



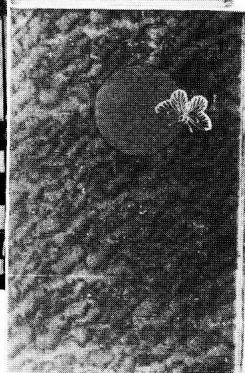
筆跡——うたたねのなまめかしくも狂徒とは
(前田家所蔵)



御客帳とその内容の一部 (前田家所蔵)

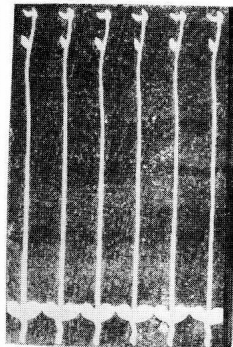


辻占賣・明治35年10月刊
(前田家所蔵)



花卉應用裝飾法・明治44年4月刊
(前田家所蔵)

趣味の栽培・大正7年9月刊
(前田家所蔵)



前 田 曜 山 (2)

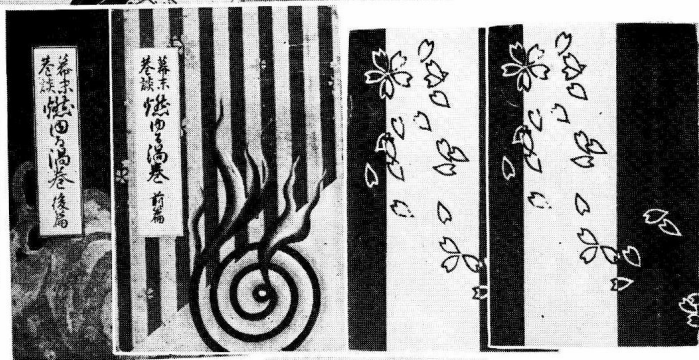
茶碗酒・明治36年1月刊
(昭和女子大学蔵)

糸の乱・大正11年8月刊(昭和女子大学蔵)



腕くらべ・明治33年12月刊
(昭和女子大学蔵)

燃ゆる渦巻 前篇・大正13年5月刊
燃ゆる渦巻 後篇・大正13年9月刊



落花の舞 前篇・大正14年5月刊
落花の舞 後篇・大正14年8月刊

(昭和女子大学蔵)

(前田家所蔵)

花ふぶきざりとはよくも散つたかな



句碑(墓所内)



お高祖頭巾の女・昭和10年
1月刊(昭和女子大学蔵)



墓所・多磨霊園

井上通泰 (1)

常磐會詠草初篇・井上通泰編

明治42年4月刊 (昭和女子大学蔵)

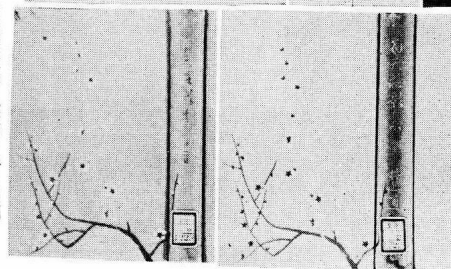


←筆跡 (坪内泰子氏蔵)

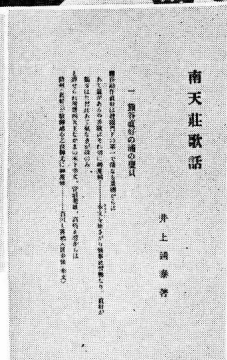


肖像 (坪内泰子氏蔵)

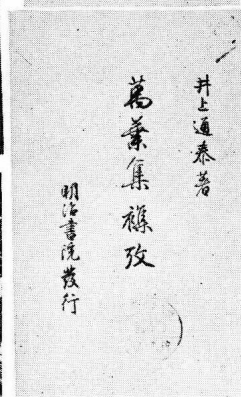
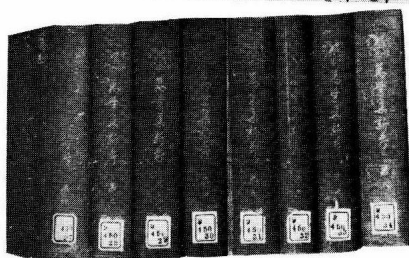
南天莊歌集・昭和3年4月刊
南天莊歌集第二篇・昭和12年5月刊
(昭和女子大学蔵)



南天莊歌話・大正15年6月刊
(昭和女子大学蔵)



萬葉集新考 第一、第八
昭和2年3月14年1月刊
(昭和女子大学蔵)



萬葉集禊放 (扉)・昭和7年11月刊
(昭和女子大学蔵)

井 上 通 泰 (2)

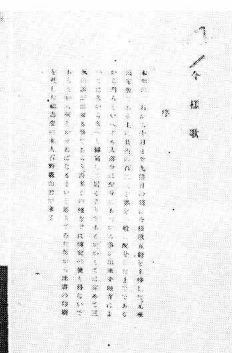
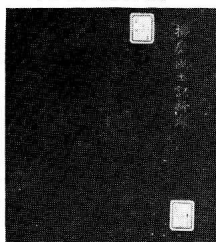
播磨風土記新考

昭和6年5月刊

(昭和女子大学蔵)

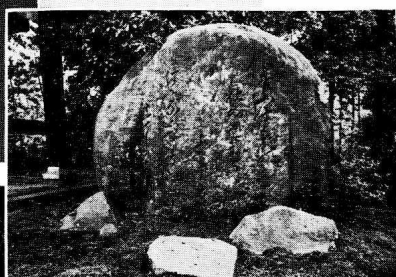
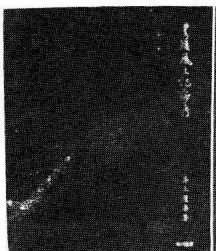
南天莊集・昭和18年8月刊

(昭和女子大学蔵)



今様歌 序・昭和12年2月刊

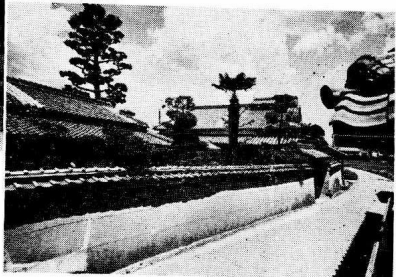
(昭和女子大学蔵)



歌碑 (兵庫県福崎町観音寺境内)



墓・多磨霊園



井上家 (兵庫県福崎町)

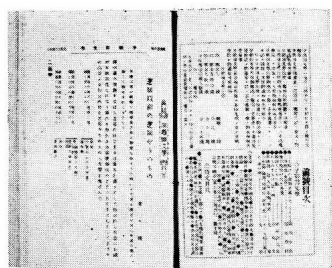
肥前風土記新考・昭和9年11月刊
豊後風土記新考・昭和10年1月刊
(昭和女子大学蔵)

伊原青々園 (1)

肖像と筆跡



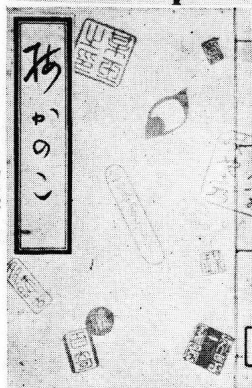
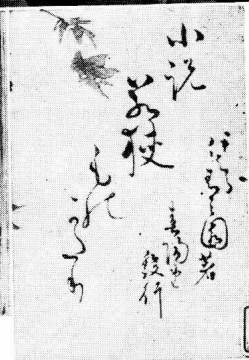
あきやま ほうふり
ふり



芝居以前の芝居やうのもの
早稲田文学・明治28年6月
(昭和女子大学蔵)

若狭物語・明治41年6月刊

(昭和女子大学蔵)



市川團十郎・明治35年12月刊
梅かのこ・奥付なし(昭和女子大学蔵)

新野崎村・明治38年7月刊

(昭和女子大学蔵)

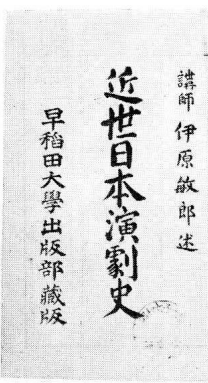
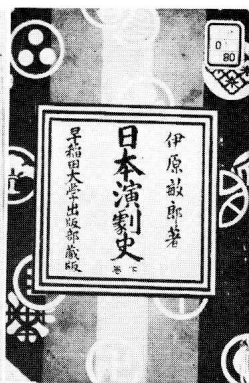


新比翼塚・明治44年11月刊
(昭和女子大学蔵)

歌舞伎・明治33年1月
(昭和女子大学蔵)

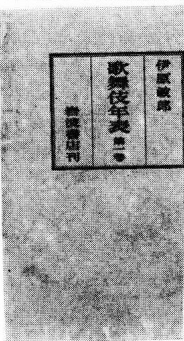
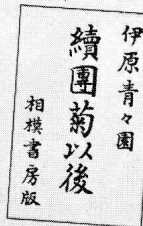
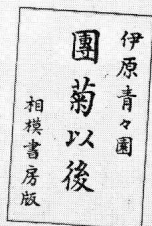
伊原青々園 (2)

日本演劇史 上・下巻
明治37年3月刊 (昭和女子大学蔵)

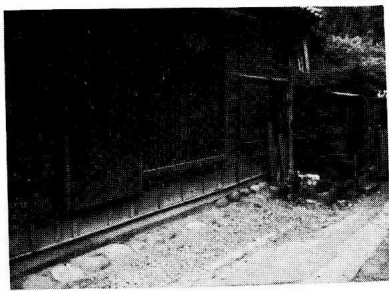


近世日本演劇史 (明治41年度早稲田大学文学
科講義録)

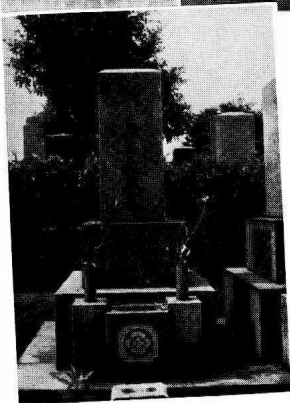
團菊以後・昭和12年4月刊
續團菊以後・昭和12年7月刊
(昭和女子大学蔵)



明治演劇史・昭和8年11月刊
歌舞伎年表第一巻・昭和31年10月刊
(昭和女子大学蔵)



南青山の旧居



墓・青山霊園

目次

口	繪	近代文学研究室 (四)
第四十七卷の成立	例	近代文学研究叢書編集室 (一九)
凡	高垣松雄	近代文学研究室 (三)
種田山頭火	前田曙山	近代文学研究室 (七)
井上通泰	伊原青々園	近代文学研究室 (一九)
近代文芸年表(47)	PERSONALITY PROFILES	近代文学研究室 (四〇)
卷未付記	讀後感	近代文学研究叢書編集室 (四八)
第四十六卷年表補遺	引	近代文学研究室 (四九)
索		近代文学研究叢書編集室 (五二)

第四十七卷の成立

本巻は昭和期第二十二巻として、昭和十五年九月から昭和十六年七月までに歿した左記五名の研究調査を収めた。

高垣松雄は英米文学者。筆名、杉田未来、滄浪子、珊瑚楼等。明治二十三年（一八九〇）十二月十三日、横須賀中里に、当時陸軍工兵横須賀築城勤務上等工長であった高垣忠房の長男として生まれた。大阪の幼稚園を経て、広島で小学校一年に入学したが、他の生徒の水準をはるかに出たので二年級に進級させられた。成績は首席を通した。その後も父の勤務の異動につれて東京赤坂、そして再び大阪を転々し、大阪では桃山中学校に落ついた。五年生の頃竹友藻風と同級になった。明治四十三年四月、桃山中学校卒業と同時に上京し、早稲田大学高等予科文科に入学したが神経衰弱のため三ヵ月目に早稲田を退学している。大正四年四月、立教大学予科文科に入学、岡倉由三郎からは訳読、英語教授法を学んだ。首席で卒業、直ちに立教中学教師となるが、奨学金によるハワイ留学のため辞職、後、シカゴ大学にも在籍したが病を得て中退、帰国した。帰国後はアメリカ文学研究に打ち込み、「英語青年」に杉田未来の筆名で「北米現代詩壇とその論評」他、さかんにアメリカ文学紹介の論文をのせた。立教大学の文芸雑誌「塔」は彼が事実上の指導者でもあった。大正十四年十月、

立教大学英文科教授となり、著作に講演に、生来頑健ではない体をいたわりながら活躍を続けた。著書に『アメリカ文学』（昭・二）『機械時代と文学』（昭・五）他がある。昭和十五年九月十三日、逗子の自宅で宿痼のため死去、享年五十であった。

種田山頭火は俳人。明治十五年（一八八三）十二月三日、山口県の防府町（現、防府市）で父竹次郎、母フサの長男として生まれた。本名正一。家は裕福な地主で、何不自由ない幸福な幼時を過ごしたが、小学校三年の時、母親が自殺、それ以来彼の不幸が始まった。小学、中学校時代、ともに優秀な成績で通し、明治三十五年九月、早稲田大学の文学科に進学したが、生家の没落という窮境の中で、自身も強度の神経衰弱と酒癖のために退学、帰郷した。しかし父子は反目し合い、山頭火は家業（酒造業に転業）も手伝わず読書三昧の日々を過ごした。父のすすめで四十二年八月結婚したが愛のない家庭生活は冷え切っていた。大正二年、萩原井泉水に師事して「層雲」に投稿の機を得、大正五年には早くも「層雲」の俳句選者の一人となった。同年、生家は一家離散し彼は妻子と熊本に転居した。しかし自身の離婚、弟の自殺で泥酔の日々が続いた。熊本市の報恩寺で出家得度して堂守となり、以来托鉢の全国行脚がはじまる。昭和五年十二月末仮寓「三八九居」を構え、「層雲」誌友を主とする三八九会なる句会を持ち、ガリ版刷りの雑誌「三八九」を創刊した。昭和七年九月其中庵を結び、同十三年から湯田町に風来居と名づけて仮寓したが、十四年十二月、松山の御幸寺境内に一草庵を結び、そこで波瀾に富んだ放浪の生涯を終えた。非定型の自由律句で季語や語法にとらわれず、自由奔放に自然を詠んだ